



「日本のホスピス50年」記念 コンサート&シンポジウム



◆ 実施日: 2024年9月14日(土) 14:00~17:00

◆ 会場: ニューオーサカホテル(大阪市)

◆ プログラム

● 記念講演「日本のホスピス50年と私の歩んだ道」

ホスピス財団 理事長 柏木哲夫氏

● 音楽ゲスト 森 祐理さん(福音歌手)

● シンポジウム

座長: 志真泰夫氏(日本ホスピス緩和ケア協会前理事長)

安保博文氏(日本ホスピス緩和ケア協会理事長)

關本翌子氏(ホスピスケア研究会理事長)

前野 宏氏(ホスピスのこころ研究所理事長)

◆ 参加者: 153名



『開催報告』

● 1973年淀川キリスト教病院に

日本で初めてのホスピスケア

OCDP (Organized Care of Dying Patient) が開始されて50年。これまでの歩みを振り返りつつ、これからのホスピス緩和ケアを考える趣旨で、4団体共催シンポジウムが開催された。

● 記念講演では、柏木哲夫氏が自身の米国留学でホスピスケアを知り、ぜひ日本でも実現したいとの強い思いから多くの困難を乗り越えて、ホスピス病棟を開設された歩みを語られた。そしてホスピスケアの真髄は「その人がその人らしい人生を全うするのに寄りそう」ことであると力説された。しかし一方で、「死の医学化」(=ホスピスケアの精神が忘れられている)という新しい問題もあり、これからはコンパッション都市として市民レベルでのホスピ

スマインドの実践が必要であると締めくくられた。

● 音楽ゲストの福音歌手、森祐理さんのコンサート、「手と手をつないで」の歌声とともに会衆の多くの方々と実際に手と手を合わせられ、素晴らしい歌声と心に染み入るトークは満員の会場に涙も交えた大きな感動を与えるコンサートとなった。

● シンポジウムでは、ホスピス緩和ケアの最前線で活躍されている3名のシンポジストから、ご自身がホスピス緩和ケアに魅せられた経緯と、現在のホスピスケアの実践が語られ、そこに共通して土台となっているのは柏木先生が提唱されている「ホスピスのこころ」であることを強調された。

最後に座長の志真泰夫氏から、これからは過去の財産を継承しつつも、ホスピス緩和ケアは新しく変容していく必要があるとまとめられた。

ホスピス・緩和ケアボランティア研修会開催

「グリーフ(悲嘆)って何？」

講師：高木慶子氏（全人力を磨く研究所 理事長
上智大学グリーフケア研究所 名誉所長）

- ◆ 実施日：2024年8月1日(木) 13時30分～16時
- ◆ 会場：ワンノットトレーズビル503号室&Web
- ◆ 参加者：会場 53名 Web 75名

日本病院ボランティア協会との共催で、本年度も対面とWebのハイブリッド開催となり高木慶子先生から多くの事例を交えながらボランティア活動へ励ましとアドバイスをいただいた有意義な会となりました。



ホスピス・緩和ケアボランティア研修会に参加して

特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会
理事 伊東 美紀



今年度の研修会は、「グリーフ(悲嘆)って何？」～悲しみ・心の痛みに寄り添うグリーフケア～のテーマのもと、一般社団法人「全人力を磨く研究所」理事長 高木 慶子氏をお迎えし、会場とZOOMから大勢の方々と共に、拝聴させていただきました。高木先生の、ゆっくりとした優しい口調と時折、芯の強さを感じる力強い声でユーモアを交え、37年間ボランティアでグリーフケア、ターミナルケアをされてこられた数々の実体験をお話してくださいました。子どもも大人も理解できるような新美南吉作『でんでんむしのかなしみ』を例に、悲しみは誰もが持っている。なので誰に対しても、思いやりをもちましょう、ボランティアの心を持ちま

しょう、とおっしゃってください、電車で出会った自殺を考えている男性を、これ以上ない！思いやりを持って立ち直りへと導かれた、高木先生だからこその実体験から出た言葉だと感じました。先生からの質問に会場の皆さんが答える場面もありました。「人様から許されるよりも、自分が人様を許す方が難しい」と思うか「逆に人様から許される方が難しい」と思うかの質問でした。「前者が絶対多数」の結果から、「人を許すという事を頑張る」、「力をいれる事」と呼び掛けてくださいました。まとめとして、悲嘆は死別とは限らず毎日の生活の中にも悲嘆はある、それを抱えながら思い通りにならない人生を生きている。ボランティア活動は病院だけの活動ではなく、日常生活の中でも、周りの方々のお役に立ちたいとの思いで、自分の持っている健康や時間など自分にあるものを困っているの方々のために使う。あるものを共有することが、ボランティアの心であるとの学びをいただき、改めてボランティア活動での足りない心を再認識でき、力をいただいた研修会でした。

■第1回 ホスピス財団・毎日新聞共催シンポジウム

「自分らしい死」とは…リアルな最後のプロセスを学ぶ

日時 2024年5月12日(日) 14時～16時

場所 昭和女子大学&オンライン

シンポジスト

小川朝生氏(国立がん研究センター医師)
梅田恵氏(ファミリー・ホスピス(株)副社長・看護師)
小谷みどり氏(シニア生活文化研究所代表理事)

司会

滝谷隆治氏(毎日新聞専門編集委員)

ホスピス財団と毎日新聞社との共催イベントがオンライン視聴も含めて実施された。毎日新聞社のPR力もあり、会場は定員はほぼ満席となり、オンライン視聴は590名の参加であった。司会の滝野隆浩氏の適切なリードもあり登壇の先生方から多くも示唆ある提言がなされ、また会場とオンライン参加者からの質問も多く出され盛況な会となった。



近刊紹介

ひとりでは死ねない

細井 順著

風媒社 2024年4月刊 1600円+税

本書「はじめに」には『生きがい』や「死にがい」を思うことなく人生を終わっていく人たちが多くなった。(中略)今こそ、幸せな人生を送り納得した死を迎えるために、「死にがい」を持ちたい。』とある。著者の思いは、たとえ末期がんであっても幸せな最期を迎えて欲しい、その為に大切なことは、痛みのコントロールだけではなく、死に行く人たちの死にいたる過程に最期までつきあうこと、これこそがホスピスの大切な使命であると語っている。ことばを変えれば、ひとりでは死なせない、これがホスピスケアの真髄であり、著者の決意表明ではないだろうか。

本書には著者が出会った多くの病者さんのエピソードに加え、生きるとは、人生とは、いのちとは何かを多くの先達の著作、ことばを引用しつつ自らの人生哲学が語られている。著者の読書量には感心させられたが、それが自身のホスピスケアへの覚悟として活かされ、日々歩まれているのであろう。

医療者のみならず、一般の多くの方々にも、“いのち”を考える手引きとして勧めたい良書である。



お知らせコーナー

●第2回ホスピス財団・毎日新聞共催シンポジウム

- ▶日時：2024年11月10日（日）14時～16時
- ▶場所：千里ライフサイエンスセンター
- ▶テーマ：「大切な人を亡くすときどうしたらいい？ 孤立と悲嘆」
- ▶シンポジスト 田村恵子氏 池山晴人氏 坂口幸弘氏
司 会 滝野隆浩氏

★詳細は近日ホームページで案内

●Whole Person Care理論編

近日発行

著者：恒藤 暁…京都大学名誉教授
発行：ホスピス財団
発売：三輪書店
2200円（税込み）



★詳細は近日ホームページで案内

●ホスピスのこころを究める
…日本のホスピス50年が
築き上げたもの

発売中
発売：三輪書店
2530円（税込み）

●映画紹介
近江ミッション

近日公開
監督：溝淵雅幸
後援：ホスピス財団



★詳細は近日ホームページで案内

こんにちは
ホスピス

ホームケアクリニック札幌の紹介

院長 藤原 葉子

当院は、札幌市清田区にある開設16年目の在宅緩和ケア専門の無床診療所です。シェヴァービングの森と呼ばれる原生林に面しており、同一敷地内に38



キッチンカーが来た病院祭

床の緩和ケア病棟を有する札幌南徳洲会病院があります。周辺には、札幌随一の梅林である平岡公園が、またファイターズの本拠地エスコンフィールドもほど近いのどかな場所です。

「いつでもどこでも質の高い緩和ケアを」を旗印に、札幌市のみならず近隣の江別市や北広島市に赴いており、訪問範囲は東京23区の約9割570kmに及び、デバイスが複数ついた比較的医療依存度の高い患者さんが多いことが特徴です。年間降雪量約500cmの札幌の冬はなかなか大変で、大雪の際には患者まで車が入れず、長靴で雪をかき分けたり着くこ

ともあります。「あの時は先生たちが雪だらけになって来てくれて、本当に安心したのよ～」と来訪したご遺族に笑いながら感謝されたりします。

そんな当院は、1階に地域緩和ケアセンター ruyka（ルイカ）を設けて『つなぐ・つながる・つながる』を合言葉に地域の方に開放しており、毎週木曜日にはプロの音楽家がミニコンサートを無料開催、生演奏を聴きながらの仕事は至福のひと時です。ノルディックウォーキングやリラクソヨガ、グリーンカフェ、宗派を超えたお坊さん達



ミニコンサート



キャンドルナイト

主催の分かち合いの会「てらつな」、オレンジバルーンプロジェクト等、自分たちも皆さんも楽しく緩やかなcompassionate areaを創造していけたらと願っています。

ホスピス財団 2024年度 事業進捗状況報告

- 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・3年目）…進行中
- 『ホスピス・緩和ケア白書 2025』（特集テーマの概説+データブック）作成・刊行事業 …進行中
- ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
 - 日時：2024年8月1日（木）
 - 場所：ワンノットトリーズビル
 - 講師：（社）全人力を磨く研究所理事長 高木慶子氏
- 『Whole Person Care理論編』発行事業…進行中
- 生老病死を支え合うコミュニティづくり～ともいき京都プロジェクト…進行中
- 『日本のホスピス50年』記念…コンサートとシンポジウム
 - 日時：2024年9月14日（土）
 - 場所：ニューオーサカホテル
 - 講演：柏木哲夫氏
音楽ゲスト：森祐理氏
シンポジウム：座長 志真泰夫氏 安保博文氏
前野宏氏 關本翌子氏
- 第1回ホスピス財団・毎日新聞社共催シンポジウム
 - 実施日：2024年5月12日（日）
 - 場所：昭和女子大学&オンライン
 - シンポジスト：小川朝生氏 梅田恵氏 小谷みどり氏
司会 滝野隆浩氏
- 第2回ホスピス財団・毎日新聞社共催シンポジウム
 - 実施予定日：2024年11月10日（日）
 - 場所：千里ライフサイエンスセンター
 - シンポジスト 田村恵子氏 池山晴人氏 坂口幸弘氏
司会 滝野隆浩氏
- 一般広報活動事業
- 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
- APHN関連事業…進行中
- 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア 第4期共同研究事業（3年計画の3年目）…進行中

*詳細はホームページに掲載しております。

ホスピス財団 2023年度(第24期) 決算の概要

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：千円)

科目	2023年度決算
【経常収益】	
①基本財産運用益	12,579
②受取寄付金	16,674
（内訳） 賛助会費収入	16,515
一般寄付金収入	159
③雑収益	1,078
経常収益計（A）	30,331
【経常費用】	
①事業運営費	27,955
（内訳） ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	8,310
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	7,584
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	5,709
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	6,352
②一般管理費	5,659
経常費用計（B）	33,614
当期経常増減額（A－B）	▲3,283

寄付者一覧

(2024年3月～2024年8月 順不同、敬称略)

(個人) 竹下淳也、坂倉有紀

新規賛助会員

(2024年3月～2024年8月 順不同、敬称略)

(団体) 独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
(個人) 金木利道、松本明郎、三浦正悦

寄付・賛助会員のお礼とお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。
(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

06-6375-7255 です。

●2023年6月末でCANPAN決済サービスが終了し、新しくSyncable(シンカブル)決済サービスに移行しております。

編集後記

今期、ホスピス50年記念コンサート&シンポジウ



アラン島(アイルランド)

ムが開催され、その歴史が語られ、またこれからのホスピス緩和ケアの歩む道が話し合われた。同時にホスピス財団は第25期を迎える年でもあり、節目の年となっている。一方、ホスピスの歴史は古く、中世のヨーロッパを中心とした教会や修道院の働きが、その起源となっていることも広く知られ、市民への開かれた癒しの場所であったと思われる。昨今、緩和ケアの中で、コミュニティ都市という概念が話題になっているが、まさに市民への開かれた緩和ケアに繋がるものであろう。

当財団は記事にあるように、毎日新聞社との共催イベントを実施した。これは、今後は市民と共に考え、地域全体で広げる緩和ケアを推進したいという趣旨で開催されたものであり、これが当財団の新しいステップになればと願うものである。

編集子